

第4学年 総合的な学習の時間学習指導案

指導者 岡村 悦子
上原 苗生
内山 愛梨

1 単元名 「みんなの町・住みやすい町・しあわせな町」


2 単元の目標

自分たちの住んでいる地域を調べる活動を通して、多様な人々が共に安全で安心して住むことができる環境が大切であることを理解し、多様な人々が互いに尊重しながら共に安全で安心して生活できる地域づくりに向けて、自分ができることを考えることができる。

3 単元の評価規準

①知識・技能	②思考・判断・表現	③主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> 地域には様々な人がいて、彼らを支える工夫が多くあることに気付いている。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域の住みやすさに目を向け、障害者や高齢者にとってはどうか、自分の課題を設定している。 課題解決に向け、地域に出たり、本やインターネット、インタビューやアンケートなどで調べたりして必要な情報を集めている。 集めた情報から一番伝えたいことは何かを選んでいる。 自分の課題にふさわしい表現方法を選び、わかりやすく表現している。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域の福祉環境に関心を持ち、自分なりの価値ある課題を見つけ、大まかな見通しや筋道を立てて追及し、福祉的な視点から地域の生活を考えている。

4 単元指導計画（全20時間）

次	時	主な学習活動	授業改善のポイント
1	1	○自分の住んでいる町が住みやすいかを考え、今後の学習課題を決定する。	

2 5 4	2 5 4	○体験をする。 車いす体験、シニア体験 (ゲストティーチャー：社会福祉協議会)	
	5	○学習計画を立てる。	
2 (本時)	6	○自分の課題を決定する。	
	7	○情報収集の計画を立てる。	
	8	○自分の調べてきたことを整理し、交流する。	
3	9 18	○集めてきた情報をまとめ、表現する。 ○お互いにアドバイスしながらまとめていく。	
	19 20	○交流を通し、様々な住みやすい工夫を知り、自分の考えをまとめる。	

5 他教科との関わり

国語科 「メモの取り方」「インタビューの仕方」「新聞を作ろう」
生活科 「まちたんけん」（第2学年）
社会科 「わたしたちの大好きなまち」「働く人とわたしたちの暮らし」（第3学年）
特別の教科 道徳 「なにかお手伝いできることはありますか」
「点字メニューにちょうせん」

1 / 20 時間目

本時の
目 標

- ・自分の住んでいる町が住みやすいかを考え、学習課題を立てることができる。

本時の
評 価

- ・自分の住んでいる町が住みやすいかを考え、学習課題を立てている。

みんなの町・住みやすい町・しあわせな町

めあて 学習課題をたてよう

わたしたちの町

→「住みやすい」

- ・お店がたくさん
- ・やさしい人がいる
- ・スーパーが便利
- ・わたしたちのことを考えてくれている

- 安心・安全
- 便利
- 楽しい
- やさしい . . .

だん差がある
見えない
読めない
道がふさがれている

バリアフリー

「バリア」とは、じゃまをするものという意味、「フリー」は、そのようなじょうたいがないという意味

学習課題

自分たちの町が、しょう害者や高れい者にとって住みやすいかどうかを調べよう。

授業改善のポイント



興味や関心を高める

2年生、3年生の既習事項を思い出させることで、本単元に興味を持たせる。



見通しをもって粘り強く取り組む

障害者と高齢者に視点を絞り学習課題を立てることで、より明確な見通しをもたせる。

①つかむ

- 町のよさを思い出す。
 - ・2, 3年生の学習を関連付けよう声掛けをする。
- 「住みやすい」とは何かを考える。
 - ・キーワードとして短い言葉で表現しよう児童に声掛けをする。
 - ・今回は「安全・安心」に注目することを伝える。

②考える

- 自分たちだけではなく、だれにとっても「住みやすい」町かを考える。
 - ・1学期に学習したパラリンピックで調べたことを思い出させる。
 - ・障害者や高齢者にとってはどうかという視点を与える。
 - ・どのような困り感があるかを考えさせる。

③学び合う

- 障害者や高齢者が困ることを出し合う。
 - ・自分にとって「住みやすい」が障害者や高齢者にとっても同じかどうか、考えたことを伝え合わせる。
 - ・障害者や高齢者の困り感と私たちの「住みやすさ」を比較しよう声掛けをする。

④まとめる

- 自分たちにとっての「住みやすさ」と障害者や高齢者にとっての「住みやすさ」の違いに気付く。
 - ・バリアフリーについて説明する。
 - ・中央区の障害者や高齢者の人数のデータを見せる。
- 学習課題を決める。

⑤振り返る

- 本時の学習を振り返り、次時の見通しをもつ。
 - ・今回学んだことをもとに課題に向けて調べてみたいことややってみようたいことを書くように伝える。
 - ・体験することを伝える。

2～4 / 20時間目

本時の

目標

・シニア体験、車いす体験をすることで、障害者や高齢者の大変なことや困ることを身をもって感じることができる。

本時の

評価

・シニア体験、車いす体験をすることで、障害者や高齢者の大変なことや困ることを身をもって感じている。

<使用したもの>

- ・シニア体験セット

<ゲストティーチャー>

- ・中央区社会福祉協議会
ボランティア・区民活動センター

みんなの町・住みやすい町・しあわせな町

～自分たちの町が、しょう害者や高れい者にとって「住みやすい」かどうか調べよう～

4年 組（ ）

シニア体験 2時間

月 日（ ）実し

（大変なこと、こまったことなど）

車いす体験 1時間

月 日（ ）実し

5 / 20 時間目

本時の
目標

・自分の町はどのような工夫があるかを調べるための今後の学習計画を立てることができる。

本時の
評価

・自分の町はどのような工夫があるかを調べるための今後の学習計画を立てている。

みんなの町・住みやすい町・しあわせな町

～自分たちの町が、しょう害者や高れい者にとって「住みやすい」か調べよう～

めあて 今後の学習計画をたてよう

しょう害者や高れい者

車いす 目の見えない人

耳の聞こえない人 し体不自由

学習計画

- ① 課題を決める（課題決定）
- ② じょうほうを集める（じょうほう収集）
 - ・町に出る ・インタビュー
 - ・アンケート ・本で調べる
 - ・インターネット
- ③ 内ようを選ぶ（整理・分せき）
- ④ 発表する（まとめ・表げん）
 - ・新聞 ・もぞう紙 ・ポスター
 - ・紙しばい

授業改善のポイント



見通しをもって粘り強く取り組む

学習計画を児童が決めることで、主体的に取り組み、見通しをもたせる。



互いの考えを比較する

学習課程を考え、出し合い、学級で1つにすることで、今までの探究活動を理解させる。

①つかむ

②考える

③学び合う

④まとめる

⑤振り返る

○本時のめあてを確認する。

○体験した車いす、高齢者の他にどのような人がいるかを考える。

・障害にはどのような種類があるか共通理解を図る。

○今後の計画を考える。

・どのように学習を進めていくかワークシートに書かせる。

○学習過程について、考えたことを出し合う。

・短冊に書き出させる。

○発表する。

○学習計画をまとめる。

・短冊を操作しながら、大まかな流れを確認する。

・具体的な方法を確認する。

・具体的な方法が出なかった場合は、今まで取り組んだことがある方法を教師から投げかける。

○本時の学習を振り返る。

・学習の見通しや次時への期待をもち、学習に取り組むことができるよう自分の言葉で振り返らせる。

・次時は自分の課題を決定することを伝える。

・どの障害者や高齢者を調べたいか児童に聞いておく。

6 / 20 時間目（本時）

本時の
目標

- ・自分の選んだ障害者や高齢者の困ること、大変なことやそれを解決するバリアフリーについて話し合い、自分の課題を見付けることができる。

本時の
評価

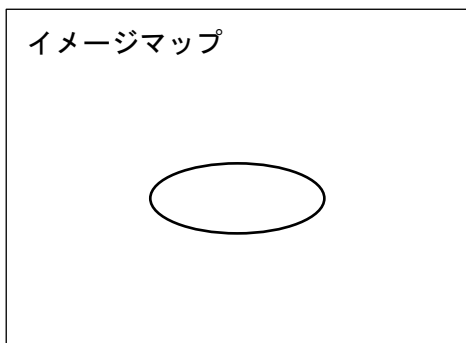
- ・自分の選んだ障害者や高齢者の困ること、大変なことやそれを解決するバリアフリーについて話し合い、自分の課題を見付けている。

みんなの町・住みやすい町・しあわせな町

～自分たちの町が、しょう害者や高れい者にとって住みやすいかどうか調べよう～

めあて 自分の課題を見つけよう。

イメージマップ



にとっての について、調べていきます。

授業改善のポイント



自分の思いや考えを結び付け、考えを形成する

同じ障害者や高齢者のグループで、困ることや大変なことを伝え合うことで、自分の課題を決定しやすくする。



興味や関心を高める

同じ障害者や高齢者のグループで、困ることや大変なことを伝え合うことで、視野が広がり、興味関心をもつことができるようにさせる。

①つかむ

②考える

③学び合う

④まとめる

⑤振り返る

○本時のめあてを確認する。

- ・前時に決めた学習計画を振り返らせる。
- ・自分の選んだ障害者や高齢者ごとに、グループニングしておく。

○障害者や高齢者の困ることや大変なこと、それを解決するバリアフリーを考える。

- ・車椅子体験やシニア体験の映像を見せ、困ることや大変なことを振り返らせる。
- ・イメージマップを使い、場面を関連付けながら考えさせる。
- ・色々な場面を想像させる。

○同じ障害者や高齢者のグループで、自分の考えを伝え合う。

- ・友達の意見は、赤で追加させる。

○自分の課題を決定する。

- ・出し合った意見を参考に自分の課題を決定し、ワークシートに書かせる。
- ICT
- ・タブレット端末を使い、個人のワークシートを提示しながら、課題について発表させる。

○本時を振り返り、次時の見通しをもつ。

- ・次時の学習内容を伝え、本時の振り返りを書かせる。

7 / 20 時間目

本時の
目標

- ・課題に向けて、情報収集の見通しをもつことができる。

本時の
評価

- ・課題に向けて情報収集の見通しをもっている。

みんなの町・住みやすい町・しあわせな町
～自分たちの町が、しょう害者や高れい者にとって「住みやすい」かどうか調べよう～

めあて 今後の計画を立てよう。

次のそう合の時間→ 月 日 ()
…この日までにじょうほうしゅう集しておく。

- ・いつ
- ・どこに行くのか
- ・だれに聞くのか
- ・注意することは何なのか

授業改善のポイント



興味や関心を高める

個人で調べることで、より探究的な活動ができるようにする。



見通しをもって粘り強く取り組む

具体的に計画を立てさせることで、見通しをもって調べられるようにする。

①つかむ

②考える・学び合う

③まとめる

④振り返る

- 前時に決めた課題を再度確認する。
- 本時のめあてを確認する。
 - ・学習計画を確認する。
 - ・期限を伝える。

- どのような方法で調べていくか、学級全体で考える。
 - ・場所を確認するだけでなく、そこに設置された理由や効果、その設備のよさなども調べるよう伝える。
 - ・調べ方と内容をワークシートに書かせる。

- 調べる方法を決定し、今後の計画を立てる。
 - ・より探究的な活動ができるよう、家庭の協力を仰いで個人で調べさせる。
 - ・個人で調べるときに困らないよう、具体的に立てさせる。

- 本時を振り返り、次時の見通しをもつ。
 - ・どの日に調べるのか明確にするために次時の日程を伝える。

8 / 20 時間目

本時の目標

・自分の調べたことを整理、分析することで、よりよいものにすることができる。

本時の評価

・自分の調べたことを整理、分析することで、よりよいものにしている。

みんなの町・住みやすい町・しあわせな町
～自分たちの町が、しょう害者や高れい者にとって「住みやすい」かどうか調べよう～

めあて 自分の調べたことを整理しよう。

表現方法

- ・新聞
- ・もぞう紙にまとめる
- ・レポート
- ・紙しばい
- ・マップを作る。

【自分の調べたことや課題に合った
表げん方法にしよう】

- ・町全体のことを調べた →マップ
- ・写真をたくさんとった →レポートかスライド
- ・いろいろな人に対して住みやすい工夫を見つけた
- ・文章を多く書きたい →新聞、レポート
- ・文章、写真を多く書きたい→もぞう紙

授業改善のポイント



互いの考えを比較する

課題が同じ子と情報を共有する機会を設けることで、さらに調べたいことや表現方法について、考えを深められるようにする。



興味や関心を高める

自分で表現方法を定めることで、自己の学び方を調整し、興味・関心を高めることができるようにする。

①つかむ → ②考える → ③学び合う → ④まとめる → ⑤振り返る

○本時のめあてを確認する。

○どのような発表方法があるのか、思い出す。

- ・学習計画を確認し、整理・分析し進んだことを伝える。

○自分の調べたことを整理する。

- ・次の活動であるまとめの表現方法を意識できるよう、大まかな内容ごとに分類させる。

○友達が調べた情報を共有し、さらに調べたいことを考える。

- ・同じ種類を調べた友達と情報共有させる。

○表現方法を決め、どんな発表にするか、共通理解する。

- ・情報に見合った表現方法にするよう声を掛ける。

○本時について振り返るとともに、次時に向けての準備を確認する。

- ・準備する物がある場合は、学習感想の中に書かせて、教員も把握できるようにする。

9～18 / 20時間目

**本時の
目 標**

- ・自分の決めた表現方法で、調べたことをまとめることができる。

**本時の
評 価**

- ・自分の決めた表現方法で、調べたことをまとめている。

みんなの町・住みやすい町・しあわせな町

～自分たちの町が、しょう害者や高れい者にとって「住みやすい」かどうか調べよう～

めあて 自分の課題をまとめよう。

【手順】

- ①まとめる。
- ②自分で見返す。
- ③さつえいブースで発表してみる。
- ④よりよくする。

- ・知らない人にも伝わるような内よう、文章かという見方が大切。
- ・相談は、同じ表げん方法の子とする。

(教室図)

黒板

新聞等でまとめる場所

もぞう紙等で
まとめる場所

動画さつえい
する場所

授業改善のポイント



見通しをもって粘り強く取り組む

発表する日をあらかじめ伝えることで見通しをもってまとめられるようにする。



互いの考えを比較する

同じ表現方法の子と見合うことで、同じ視点でアドバイスし合い、改善策を考えられるようにする。



思考して問い続ける

発表の様子を録画できるブースを作り、細かな部分も自分でよりよくできるようにする。

①つかむ

②考える

③学び合う

④まとめる

⑤振り返る

- 本時のめあてと発表する日を確認する。
- ・見通しをもってまとめられるよう発表する日を確認する。
- ・日にちを意識しながら進められるよう、教室内にカレンダーを設置する。

- 前時で決めた計画に沿って進める。
- ・相手意識をもち、まとめていくよう声を掛ける。(10時間目以降)
- ・子どもたちの進捗状況をふり返りカードで確認し、個別に声を掛けていく。

- 同じ表現方法の子と見合ったり相談したりして、よりよいものを目指す。
- ・お互いにアドバイスし合って改善策を考えられるようにする。

- 発表練習を繰り返し行う。**ICT**
- ・タブレット端末を設置し、自分の発表の様子を録画し、確認させる。

- 本時の学習をふり返り、次時の見通しをもつ。
- ・自信をもって発表に臨めるように声を掛ける。

19・20 / 20 時間目

本時の
目 標

・発表を通して、自分の思いを表現するとともに、障害者や高齢者が住みやすい工夫がされていることを理解することができる。

本時の
評 価

・発表を通して、自分の思いを表現するとともに、障害者や高齢者が住みやすい工夫がされていることを理解している。

みんなの町・住みやすい町・しあわせな町

～自分たちの町が、しょう害者や高れい者にとって「住みやすい」かどうか調べよう～

めあて 発表を聞いて、この町の住みやすさについて考えよう。

【発表のポイント】

【聞くときのポイント】

授業改善のポイント



思考を表現に置き換える

これまで調査して知ったことを自分なりの方法で表現することで、この町の住みやすい工夫について理解を深められるようにする。



自分の思いや考えを結び付け、考えを形成する

異なることを調べた児童の発表を聞くことで、様々な人が住みやすくなる工夫をしていることを知り、自分ができていることを考えさせる。



振り返って次につなげる

本単元を通して、これから生かしていこうと思うことを書くことで、今後の単元につなげる。

①つかむ

- 本時のめあてを確認する。
- ・今までの学習をふり返るよう声を掛ける。
- ・発表するときのポイント、聞くときのポイントを提示する。

②学び合う

- 発表を互いに聞き、この町の「住みやすい工夫」について考える。
- ・障害者や高齢者が住みやすくなるような工夫を知ることができるよう、発表をしっかりと聞くよう声を掛ける。
- ・発表の時間と感想を書く時間を分ける。

③まとめる

- この町には住みやすい工夫があることを理解する。
- ・たくさんの工夫があることを理解できるよう、感想を伝え合う時間を設ける。
- ・障害者、高齢者だけでなく、様々な人にとって住みやすい工夫であることを伝える。

④振り返る

- 学習全体を通して思ったこと、これから生かしていきたいことを記す。
- ・これから生かしていきたいことを記すことで、今後の単元につなげられるようにする。